



入野小学校

『鍛える』

心豊かで、たくましい

子どもの育成

校長 筒井 広実

◆はじめに

本校では現在、152人(男子80人、女子72人)の児童が在籍しています。今年度の教育目標は、昨年度に引き続き「鍛える」です。

たとえば「困っている友だちがいたら声をかけ、助けることができる」「できるだけ、歩いて登校する(バス通学は除く)」「たくさん本を読む」、そんな強い力を全校児童が身に付けることができるようになればと考えています。

「効果のある取り組み」をめざし、最小の労力で最大の効果を出せるよう教職員が一丸となって頑張っています。

◆校内研修の取り組み

今年度も「かかわり合い学び合う子どもを育てる」「聴く」「話す」「書く」活動の充

実をめざすとして、各教科、領域などの学習を通して言語活動の充実を目標に取り組んでいます。

これまで取り組んできた「ノート紹介・ノートコンテスト」をさらに充実させ、一人ひとりの「書く」スキルをレベルアップさせるために今年度は「視写」に取り組んでいます。「音読」や「1分間スピーチ」も行っています。

基礎・基本の力の底上げを図りつつ、ペア学習や班学習の場面を活用しながら「かかわり合い・学び合う」活動へとつなげていきたいと考えています。

◆学力の状況

〈本年度の学力調査結果より〉

平成25年度標準学力調査結果

(全国を1とする)

| | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|----|------|------|------|------|
| 国語 | 0.93 | 1.04 | 1.00 | 1.05 |
| 算数 | 0.94 | 1.01 | 1.03 | 1.10 |

○読書活動の充実

読書時間の少なさを本校児童の課題のひとつと捉えて、取り組みをしています。

①図書室の充実

図書支援員の力を借りて、児童の学習内容に合わせて本を準備したり、季節の行事を取り入れた飾り付けをしたりして、図書室が利用しやすくなっています。

②読書の時間の充実

毎日の「読書」の時間に集中して取り組むことができれば、10分間という短い時間ですが、1週間で50分です。児童も教職員も一緒に「本の世界」を旅しています。

生涯にわたって学び続けることのできるよう、読書の習慣をしっかりと身に付けさせたいと考えています。



◆特色ある学校づくり

○体験学習

本校では4年生が入野の特産「らっきょう」の地域学習をしています。

植野隆さんの畑をお借りして「らっきょう」の体験を行いました。「収穫」「らっきょう漬け」「植え付け」の体験をしました。



○防災キャンプ

今年も、5年生が親子防災キャンプを行いました。牛乳パックでお皿とスプーンを作りカレーを食べたり、宿泊所とした体育館では、ダンボールでパーティションを作ったりしました。また、親子で地震車も体験しました。

「鍛える」

これからも心と体を鍛え、「たくましい子ども」の育成を目指し、職員が一丸となってさらにすばらしい学校を目指します。



運動会に作った「鍛える」Tシャツ

*入野小学校ホームページのご案内

www.kochinet.ed.jp/irino-e

毎日、更新しています。ぜひ、ご覧ください！

田ノ口小学校

『意欲的に活動し、心豊かにたくましく生きる児童の育成』

校長 溝渕 雅一



どもたちのがんばりにあるが、もう一つは、子どもたちが混じり平均年齢50歳

◆はじめに

小規模ながら、校区に団体もあり比較的児童数に恵まれてきた本校であるが、本年度の1年生は6人、全校児童62人と他校同様ご多分に洩れず児童の減少傾向にある。

しかし、子どもたちは元気である。早朝からの挨拶運動や全校マラソンなどは、田ノ口小の自慢の取り組みである。

◆子どもたちの姿に向き合う

朝早くから校門をくぐる子どもたち。「おはよう」の元気な挨拶が笑顔とともに職員室にも飛び込んでくる。教師もすかさず窓を開け出迎える。子どもたちは一生懸命、昨日の学校や家庭での出来事を語りはじめ。言葉に言葉。心に心：そんなやりとりに、子どもたちが育つ環境の基礎が家庭や地域の温もりとともに学校生活にはある気がする。

◆子どもたちの中に…

始業前の朝マラソンでの関心事は、最後まで走りきる子

を超える職員が共に走り共に競い合っている姿にあると思う。このような情景を、授業中だけでなく、サッカーや遊など休み時間や放課後の時間帯においても自然に何うことができる。

◆津波からの避難…

田ノ口小では、2カ所の避難場所が設定されている。学校の裏地にある第1避難場所の「せせらぎ公園」と、国道を通って東へ逃げる第2避難場所の「緑野団地」である。

せせらぎ公園へは、先日の訓練では上部の広場まで2分50秒で避難できている。近く避難道も整備されているが、土石の心配や滞在する際のトイレや家屋がない状態である。団地は少し遠方になるが高台にあり避難場所としてはさまざまな面で適している。災害時、瞬時の判断が要求されるが、多様な訓練を積み重ねる中で、しつかり決断していきたい。

平成25年度標準学力調査結果

(全国を1とする)

| | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|----|------|------|------|------|
| 国語 | 1.13 | 1.00 | 1.04 | 1.01 |
| 算数 | 1.03 | 1.00 | 1.10 | 1.07 |

子どもたちは、学校や家だけでなくどこにしようかと、一人ひとりが状況を把握して自分の命を自分で守れるための学習を積み重ねている。

◆基礎学力の定着を目指して

毎週水曜日に校内研究の時間を設定している。子どもたちの日々の様子や学力向上について研究がなされている。

本年度の標準学力調査の結果において、どの学年も、正答率の平均はほぼ全国と同等であるといえる。引き続き日々の授業や家庭学習を大切に、意欲をもって学ぶ姿勢を育てたい。

また、学んだ知識を活用できる能力を育てる取り組みを進め、同時に何よりも子どもたちが楽しく集える学舎づくりに全力を尽くしたい。

◆仲間との触れ合い、協力…



校舎のいたるところに共同作品が見られる。集団生活での協力や協働、仲間づくりの一環として共同作品づくり

に取り組んでいる。ゲームやパソコン、スマートフォンなどが流行っている

現在、子どもたちに必要なのは集団の中でみんなを力に合わせるさまざまなことに取り組みることではないかと考えている。相手の立場を考えながら協力し連携していく。そんな風土が田ノ口小にはある。

◆地域の力とみんなの力

11月半ば。参観週間の期間中に校内音楽祭とお年寄りの交流会が開かれた。町の音楽祭へのリハーサルを兼ねているが保護者や家族をはじめ地域より区長さんや民生委員さんなど開かれた学校づくりの委員さんやボランティアさんなどたくさんの方々が参加してくれました。そんな中、運動会でも披露した一輪車の創作を行った。

新しいメンバーも加わり33人の児童が次々に手を繋ぎ合い今年も校庭いっぱい大きな花を咲かせてくれた。

参加いただいた皆さんから「感動をありがとう」との感想をいただき、子どもたちも大喜びであった。

あらゆる面でご支援をいただいている地域からの温かな声援が、子どもたちの成長の糧になっているのは言うまでもない。

◆田ノ口小は自然を力に…
今年の夏は猛暑日が続き異常に暑かったが、夏休み中には町や地域のご協力のもと、プールと御坊畑の河川を開放することができた。



御坊畑は蛸瀬川の中流域にあり、ヤマトテナガエビやツガニが生息している。そんな中で子どもたちは輝いていた。排水や工事などの問題もあるが、子どもたちのために自然の中での遊び場がいつまでも残っていて欲しいと願う。ただ今、子どもたちは「古塚」でしいの実拾いに夢中である。

佐賀中学校

『人間を大事に』

～考え・かかわり

つながり・高まる～

校長 広井 紳一

◆はじめに

あなたの学校の教育目標は何ですかと問われて、「人間を大事に」です!と、生徒全員が即座に答えることができます。このことは他校ではなかなかできないことで、本校が誇れることの一つでもあります。

本年度も『人間を大事に』を教育目標とし、人権・「同和」教育を根底に据え、いじめや差別を許さない人としての生き方を大事にした日々の生活・授業や部活動、さらに



「佐中祭」開始前のシュプレヒコール

生徒会活動・学校行事に、全校挙げて取り組んでいます。

また、校内研究テーマを『自ら学ぶ力』を育てる指導方法の研究～考え・かかわり・つながり・高まる～として、『基礎学力の定着と充実』および『仲間づくり』を推進するために、学力向上プロジェクト・



授業風景

仲間づくりプロジェクトの2部会を中心に、校内研修を充実させるよう取り組んでいます。

◆基礎学力の定着と充実

○授業改善と家庭学習

下の表が学力の状況で、学年や教科によって課題があります。基礎学力の定着を図り学力を向上させるためには、日々の授業の充実と家庭学習を定着させることが基本となります。そこで、形成テスト(授業始めの5分間テスト)を導入した「授業づくりのスタンダード」の取り組みに重点を置いています。この形成テスト(C.T)は、単元や期末の各テストにも反映されるもので、日々の形成テストで7～8割をクリア(7～8割未満

は補充学習)していくことで各テストの成果につなげ、努力した達成感を味わわせ、学習意欲を高めることを目標にしています。さらに、家庭学習の内容を形成テストと連動させ、内容の充実と成果につなげるようにしています。

1学期末のアンケートでは、ほぼ全員の生徒が有実感を感じ、意欲的に取り組めたと答えています。形成テストへの取り組みをより一層充実させて、家庭学習の質と量の向上を図りながら、基礎学力の定着と学力の向上につなげていきたいと思っています。

平成25年度標準学力調査結果

(全国を1とする)

| | 国語 | 数学 | 英語 | 理科 | 社会 |
|----|------|------|------|------|------|
| 1年 | 1.01 | 1.07 | | 0.97 | 0.98 |
| 2年 | 1.04 | 0.95 | 0.83 | 0.97 | 1.09 |
| 3年 | | | 1.10 | 1.02 | 1.15 |

◆仲間づくり

○生徒会活動や

学校行事を通して

本校では、授業だけでなく生徒会活動・部活動や学校行



大盛況の佐中祭

事を通して、仲間づくりをすすめています。その中でも本校の3大行事といえるのが、「佐中祭」「運動会」「人権集会」になります。

特に生徒主体で取り組む「佐中祭」は、今年で13年目を迎える本校独自の生徒一人ひとりが主役の行事です。今年度は生徒会から「以前のような夜間の日程で実施したい」という要望を受け「まごころ」復活、夏の思い出をテーマに掲げて1学期に行いました。準備期間が今までの半分という短い時間の中で、生徒会執行部や3年生を中心に積極的な活動し、縦割り班の店舗活動やステージ発表に意欲的に取り組み、みんなの力で佐中祭を成功させることができました。生徒全員が心をこめて準備と練習を重ね開催するこの佐中祭は、地域に愛され親しまれる行事としてしっかりと定着しています。

◆防災教育

本年度は、高知県実践的防災教育推進事業を受け、地震・津波から命を守るための防災教育を積極的に推進し、自らの命を守るために「主体的に行動し、正しく判断できる力」を育てるために取り組んでいます。

防災教育の目標を「人間を大事にする」防災教育の推進とし、各学年のテーマを1年「命を守るために 私たちができることは」、2年「災害に備える 地域を見つめて」、3年「災害に強いまちづくり 佐賀」として防災学習を深めているところです。

しかし今までの実践では、保護者・地域と連携した取り組みの面では十分とはいえません。災害時には地域の繋がりが減災につながるといわれていますので、今後は学校と家庭・地域が連携して、命と生活を自ら守るための防災教育の充実をより一層図っていきたいと思っています。



保小中合同避難訓練